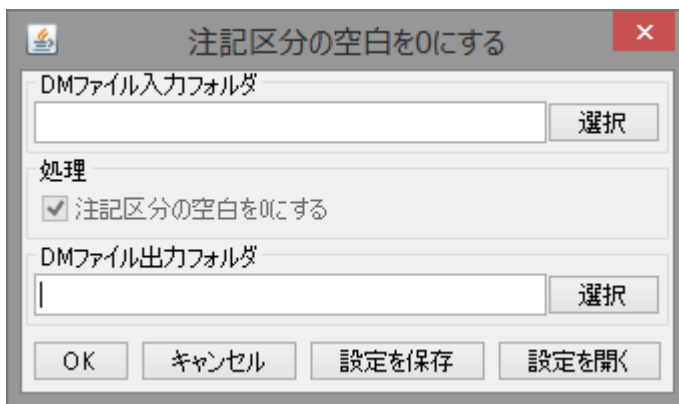


## 1. 注記区分の空白を 0 にする

メニュー「DM から DM」に「注記区分の空白を 0 にする」を追加しました。

DM データファイルの要素レコードの 24 バイト目の「注記区分」が空白(半角スペース)の場合、「0」に変更します。対象となる要素は注記(E7)だけではなく、面(E1)、線(E2)、点(E5)など、全ての要素です。「注記区分」が「0」「1」「2」等、空白でない場合は変更しません。



### DM ファイル入力フォルダ

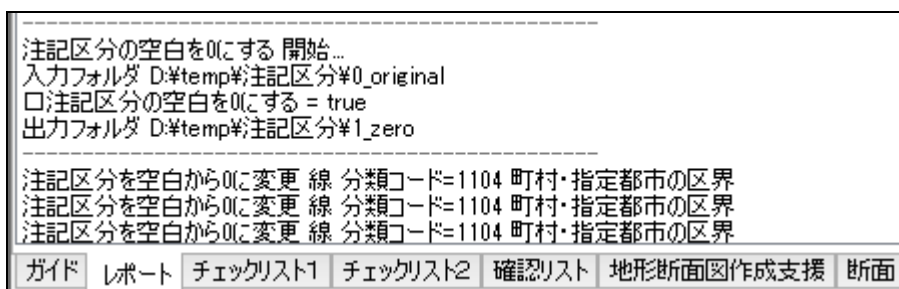
DM データファイルのあるフォルダを指定します。

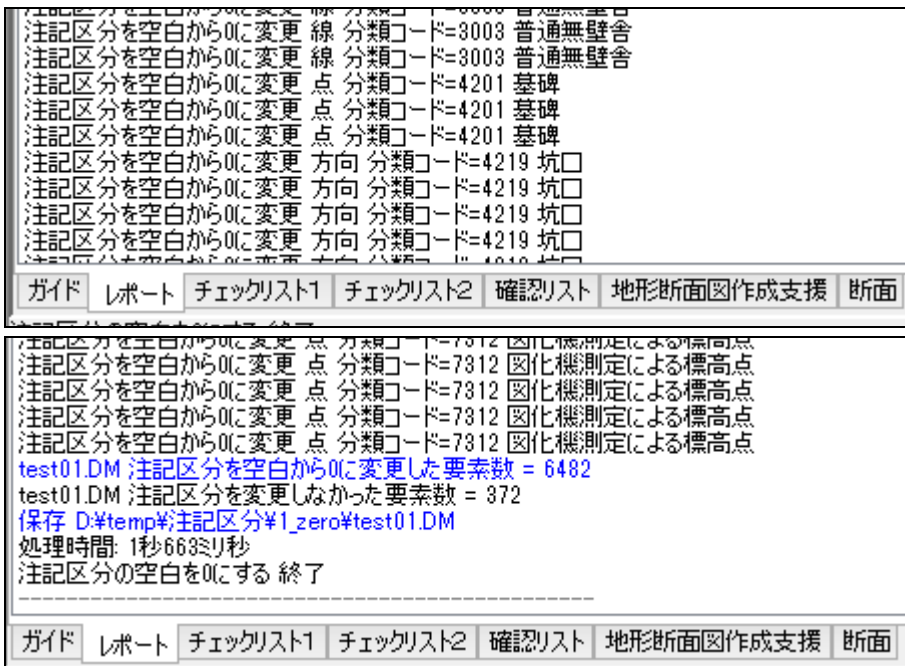
### 処理

処理内容を明示するためチェックボックスです。

### DM ファイル出力フォルダ

図郭の範囲を変更した DM データファイルを保存します。ファイル名は元のファイル名と同じです。





レポートパネルには「注記区分」を空白から「0」に変更した要素をレポートします。  
 レポートパネルには「注記区分」を空白から「0」に変更した要素数をレポートします。

## 2. 要素リストアップ

[ツール]-[要素リストアップ]の処理に「注記の字隔を変更する」で、字隔に「0」を指定できるようにしました。

**要素リストアップ**

**データタイプ**

E1面  E2線  E3円  E4円弧  
 E5点  E6方向  E7注記  E8属性

**分類コード**

すべての分類コード

分類コードを選択(1) 選択(1)...

分類コードを選択(2) 選択(2)...

分類コードを選択(3) 選択(3)...

砂防基礎地図の3次元取得項目

**2次元、3次元**

2次元と3次元すべて

3次元

3次元で標高値が全て0.0

3次元で標高値が-999より高い

3次元で標高値が-999より高く0.0より低い

3次元で標高値が-999より高く、全て同じ

3次元で標高値が-999より高く、一部異なる

3次元で標高値が-999以下

2次元

3次元の標高値

m以上  m以下

**図形区分**

すべての図形区分

非区分(0)

射影部の上端(11)

射影部の下端(12)

表現補助データ(99)

表現補助データ(99)以外

0,11,12,99以外

定義以外

指定

**間断区分**

すべての間断区分

間断区分=0

間断区分=1

間断区分=2~9

**面(E1)線(E2)の点数**

点数は問わない

2点

3点以上

**面(E1)線(E2)の長さ・面積**

長さは問わない

長さを指定(2D)

長さを指定(3D)

長さの最小値  m

長さの最大値  m

面積は問わない

面積を指定(2D)

面積  m<sup>2</sup>未満

始点と終点が同じ座標

**その他の条件(1)**

精度区分(上位桁)

精度区分(下位桁)

取得年月

更新の取得年月

消去年月

**その他の条件(2)**

注記の数値の小数点以下桁数が1

取得年月

以上  以下

消去年月が空白か0以外

要素識別番号=

異なるZ値がある(水平ではない)面・線

Z値が全て同じ(水平な)面・線

注記が縦書き

注記の文字列(全部一致)=

注記の文字列(一部一致)=

注記の字大=

**処理**

リストアップ(順次)

リストアップ(長い方から)

リストアップ(高い方から)

面(E1)を線(E2)にする

円(E3)を点(E5)にする

点(E5)を方向(E6)にする

方向(E6)を点(E5)にする

分類コードを変更する

図形区分を変更する

精度区分(上位桁)を変更する

精度区分(下位桁)を変更する

間断区分を0にする

間断区分を1にする

間断区分を2にする

取得年月を変更する

更新の取得年月を変更する

消去年月を変更する

注記の字幅を変更する

注記の線号を変更する

2次元化する

3次元化する Z値=

標高値=-999mで3次元化する

標高注記(E7)を3次元化する

標高値を10分の1にする

標高値を10倍にする

点列の順序を反転する

該当要素を削除する

レポートパネル出力